

2016年 院内がん登録

■ 院内がん登録の対象症例

当院において新規にがんの診断または治療を行った入院および外来患者様を対象としています。また、1腫瘍1登録の原則で登録され、同一患者に複数の腫瘍が診断または治療された場合は、腫瘍ごとに複数登録されます。

院内がん登録は、症例、登録内容の追加が行われるため、集計時期によりデータが変遷します。

■ 院内がん登録の内容

院内がん登録では、国立がん研究センター「がん対策情報センター」の院内がん登録標準登録様式を用いて行なわれます。2016年症例に使用されているのは「標準登録様式 2016」です。登録対象となったがんの診断日などの日付等、部位、組織型、初回治療の内容などが診療情報管理室でデータベースに登録されています。

1. 院内がん登録症例数

登録数は2015年と比較して2016年は総計で145件増加し、男女ともに増加しています。2015年より外来がん登録を開始したことにより件数が増加し、2015年には70件の増加があります。

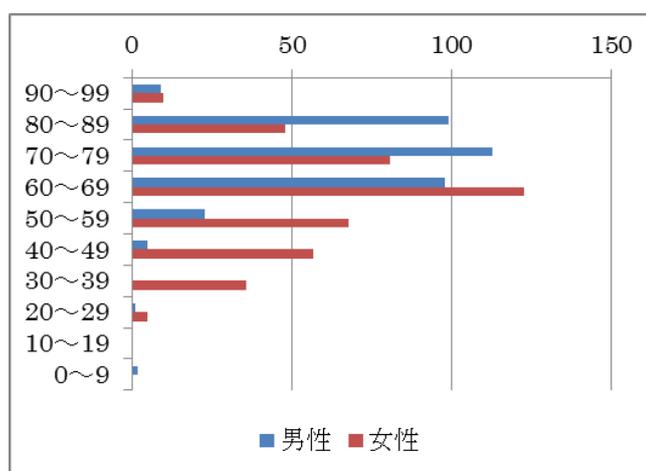
	2013年	2014年	2015年	2016年
男性	297	331	337	350
女性	271	232	296	428
総計	568	563	633	778

2. 登録症例の性別・年齢階層別数

女性は、30歳代から60歳代まで男性よりも多くの症例を登録していますが、子宮頸癌をはじめとする女性に多いがんの好発年齢となっているためです。70歳代からは男性の登録症例が女性よりも多くなります。

	男性	女性	小計
90-99	9	10	19
80-89	99	48	147
70-79	113	81	194
60-69	98	123	221
50-59	23	68	91
40-49	5	57	62
30-39		36	36
20-29	1	5	6
10-19			
0-9	2		2
総計	350	428	778

2016年 性別・年齢別登録数



3. 来院経路・発見経緯

症例区分 20～31 を集計

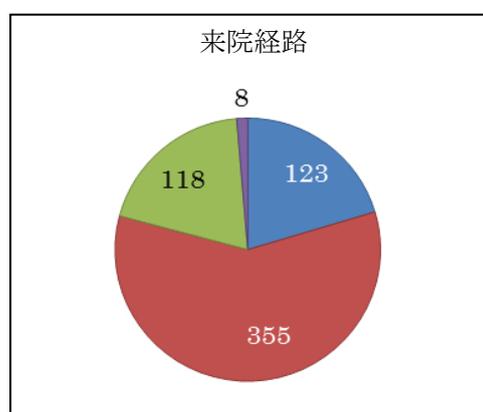
◆ 症例区分 20～31 の内容

- 20 自施設診断・自施設初回治療開始
- 21 自施設診断・自施設初回治療継続
- 30 他施設診断・自施設初回治療開始
- 31 他施設診断・自施設初回治療継続

● 来院経路

来院経路は、患者様ががんの診断・治療のため、当院にどのような経路で受診されたかを表します。当院では他施設からの紹介がもっとも多くなっています。

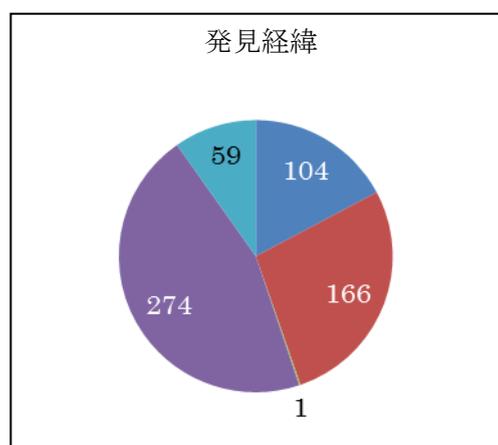
	男性	女性	合計
■ 自主的受診	5	68	123
■ 他院紹介	151	204	355
■ 自施設での他疾患経過観察中	59	59	118
■ その他	4	4	8
総計	269	335	604



● 発見経緯

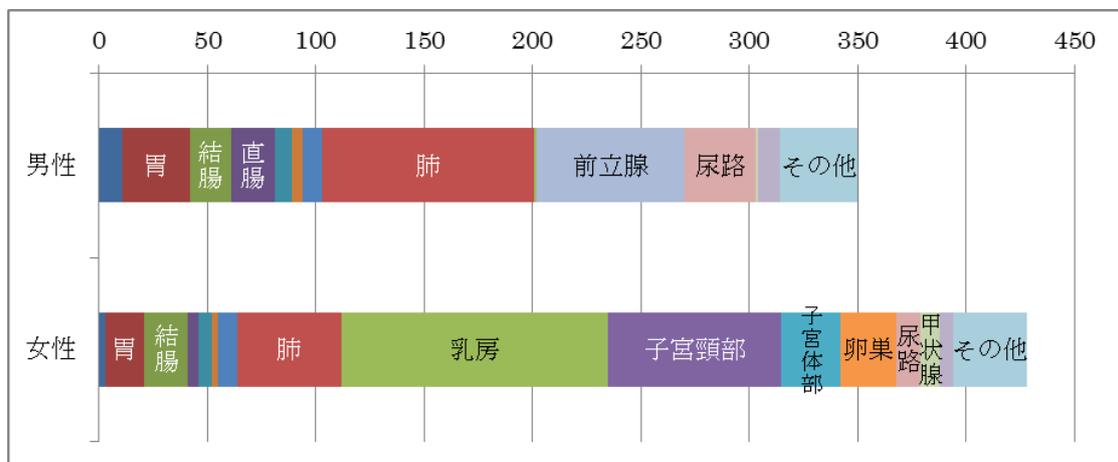
発見経緯は、がんが診断される発端となった状況を表わします。発見経緯のその他は、がんによる自覚症状などが発端で受診をされた方です。不明は、他施設より紹介いただいた患者様で発端となった状況のわからない方です。

	男性	女性	合計
■ がん検診・健康診断・人間ドック	35	69	104
■ 他疾患の経過観察中の偶然発見	86	80	166
■ 剖検発見	1		1
■ その他	143	31	274
■ 不明	4	55	59
総計	269	335	604



4. 性別・部位別の登録数

	男性		女性		合計	
	登録数	割合 (%)	登録数	割合 (%)	登録数	割合 (%)
■食道	11	3.1	3	0.7	14	1.8
■胃	31	8.9	18	4.2	49	6.3
■結腸	19	5.4	20	4.7	39	5.0
■直腸	20	5.7	5	1.2	25	3.2
■肝臓	8	2.3	6	1.4	14	1.8
■胆のう、胆管	5	1.4	3	0.7	8	1.0
■膵臓	9	2.6	9	2.1	18	2.3
■肺	98	28.0	48	11.2	146	18.8
■乳房	1	0.3	123	28.7	124	15.9
■子宮頸部	0	0.0	80	18.7	80	10.3
■子宮体部	0	0.0	27	6.3	27	3.5
■卵巣	0	0.0	26	6.1	26	3.3
■前立腺	68	19.4	0	0.0	68	8.7
■尿路	33	9.4	11	2.6	44	5.7
■甲状腺	1	0.3	9	2.1	10	1.3
■悪性リンパ腫	10	2.9	6	1.4	16	2.1
■その他	36	10.3	34	7.9	70	9.0
総計	350		428		778	



●2014年の罹患数（全国合計値）が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位	
男性	胃	肺	大腸	前立腺	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸5位
女性	乳房	大腸	胃	肺	子宮	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸2位、直腸7位
男女計	大腸	胃	肺	乳房	前立腺	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸6位

<国立がん研究センター がん情報サービス>より>

●2016年の罹患数（自施設合計値）が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位	
男性	肺	前立腺	大腸	胃	食道	
女性	乳房	子宮	肺	卵巣	大腸	
男女計	肺	乳房	子宮	前立腺	大腸	

男性は、全国合計値では5位に肝ですが、当院では食道となり、1～4位の順番は違いますが、同じ部位となっています。

女性は全国合計値の3位が胃ですが、当院では5位までに胃が含まれず4位に卵巣が入っています。

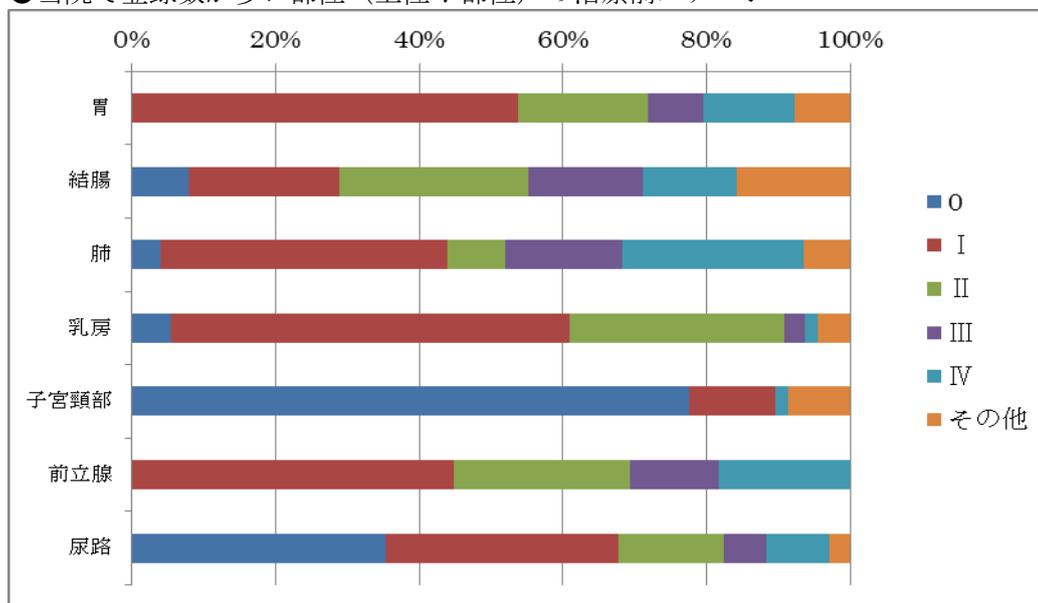
男女計では、全国合計で2位の胃が含まれず、3位に子宮が含まれ、他の部位の順位も違いが見られます。

5. 部位別の治療前ステージ

症例区分 20～31 を集計

	0	I	II	III	IV	その他	合計
食道	1	1	1	2	2		7
胃		21	7	3	5	3	39
結腸	3	8	10	6	5	6	38
直腸	4	10	1	2	3	2	22
肝臓		1	5	1	3		10
胆のう・胆管		3	1		1		5
膵臓			4		9	3	16
肺	5	49	10	20	31	8	123
乳房	6	61	33	3	2	5	110
子宮頸部	45	7			1	5	58
子宮体部		10		2	1	1	14
卵巣		1	2	1	1	2	7
前立腺		22	12	6	9		49
尿路	12	11	5	2	3	1	34
甲状腺		4	1	1		2	8
悪性リンパ腫		1	3	7	4		15
その他	13	21	8	5	12	24	83
総計	77	220	98	59	89	61	604

●当院で登録数が多い部位（上位7部位）の治療前ステージ



上位7部位のうち結腸、肺、前立腺以外は治療前ステージがI期までのものが50%を超えています。

登録件数の最も多い肺では、IV期の割合が他の部位よりも多く、また子宮頸部、尿路では0期の割合が多くしめられています。

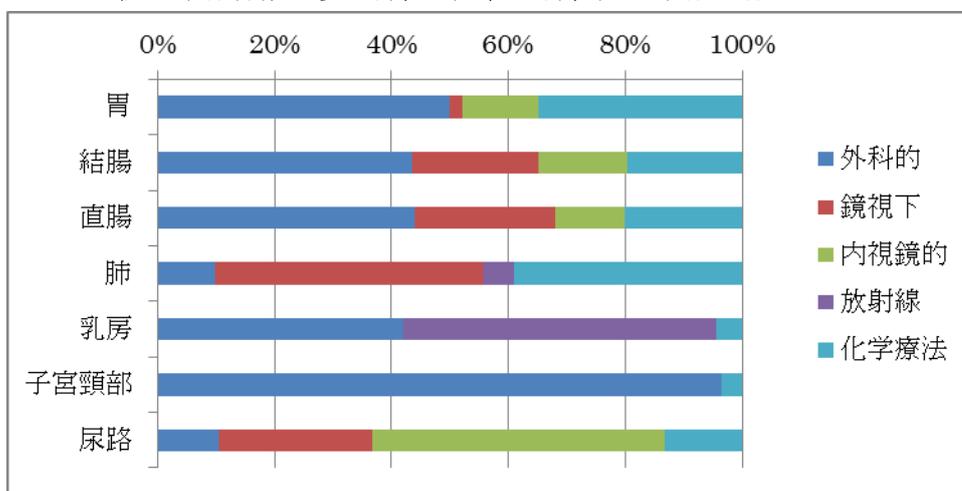
6. 部位別の治療内容（初回治療）

症例区分 20～31 のうち、初回治療の主要なものを集計

1 症例につき複数の治療が行われている場合はそれぞれ計上

	外科的	鏡視下	内視鏡的	放射線	化学療法
食道	0	0	1	2	2
胃	23	1	6	0	16
結腸	20	10	7	0	9
直腸	11	6	3	0	5
肝臓	0	0	0	0	4
胆のう・胆管	4	0	0	0	4
膵臓	5	0	0	1	5
肺	13	61	0	7	52
乳房	58	0	0	74	6
子宮頸部	54	0	0	0	2
子宮体部	13	0	0	0	4
卵巣	6	1	0	0	5
前立腺	6	7	0	2	0
尿路	4	10	19	0	5
甲状腺	8	1	0	0	0
悪性リンパ腫	1	0	0	0	12
その他	22	10	19	10	19
総合計	244	97	36	96	145

● 当院で治療件数が多い部位（上位 7 部位）の治療内容



上位 7 部位について

胃は、外科的治療が約 50%あり、鏡視下治療はほとんどなく化学療法、内視鏡的治療が行われています。結腸・直腸は外科的治療とともに鏡視下治療も行われ、合わせて 66%あります。肺は、鏡視下治療、化学療法が多くなっています。乳房は、外科的治療に加え、放射線治療が行われ、95%に及びます。子宮頸部は、外科的治療が 96%あります。尿路では他の部位よりも内視鏡的治療が多くなり、52%になります。